

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月27日(火)

会場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>地域内交通の実証実験が1年間行われている。135名が登録しているが、その内、20%くらいの方が利用している。診療所へ行かれる方が多く、85歳から90歳以上の方が利用していただいている。今年の秋には終了する予定になっているが、その後も、公用車を貸与していただくなど、高齢者を支えていただくような施策をお願いしたい。税金の申告に行くのにも利用されている。市外へ行ってほしいという要望もある。バス停まで遠く、便数も少ないことが課題である。この件に関して、市のご協力をお願いしたい。</p>	<p>昨年の12月から、広島県、マツダ、三次市と川西自治連合会と一緒に、「支え合い交通」の実証実験が地域の皆さんが主体となって行われている。当初、9月末までの期間と聞いているが、現時点で、マツダ、広島県から予定通り9月末で終了するのか、延長するのか正式な話は聞いていない。実証実験におけるアンケート結果も見せていただいた。この移動サービスについて、ある程度の需要があることがわかる。今後、川西の地域で、どのような移動サービスが必要かを地域の皆さんと引き続き考えていかなければいけない。現在のように運賃をいただかない無償運送になると、現法律では、車両の提供等が可能だが、今まで本市では事例がないので、検討が必要になると考えている。また、無償ではなく、利用者から運賃をいただくとなると、道路運送法に沿って必要な手続きが必要となる。作木では、その事例がある。この輸送方法に移行する場合には、作木と同様に、支援させていただける部分もあると思う。現状では、車両の提供については、様々な課題をクリアする必要があり、難しいと考える。一方、地域外への移動支援、確保については、基本的に地域間の幹線的な路線バスやJRがその役割を担っている。地域内交通では、川西地区でも以前は、市民タクシー制度を利用されておられたが、現在は、運転免許証を持たない方等の自ら移動手段がない方に、一定の条件のもと、タクシー利用する際の運賃の一部を助成する相乗りタクシー事業を展開している。乗り継ぎ無しでという気持ちもわかるが、JRや路線バスも大切な移動手段の一部であるので、ぜひ、ご利用していただければと思う。</p>	
<p>地域資源として、川西ではサイクリングの体験交流を行っている。最近、サイクリング人口も増えている。三次市では、どのような取組を行っているか。</p>	<p>市では、今年9月21日に「第6回グルメライドin中国山地」というサイクリングとグルメを合わせたイベントを行う。布野の道の駅を出発し、君田、高野、島根県を含めた124キロのコースを回るイベントを開催している。現在、338名の応募があった。遠くは埼玉県、鹿児島県からも応募があった。川西に関連して、里づくりビジョンの中でサイクリングを取り上げたページがある。広島県では、山並み街道サイクリングロードを設定している。みよし運動公園をスタートし、川地、板木を回り、三和の375号線を経由して、県道56号線を通って、上田の平田観光農園、三若を通って、375号線を通って元に戻るといったコースが設定されている。市としても、広島県のコースの設定について協力させてもらっている。名前は「フルーツアンド千本桜コース」、距離は53キロのコース設定となっている。サイクリングに関しては、以上のような取組を行っている状況である。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月27日(火)

会場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>補足させていただく。地域内交通実証実験については、有償、無償の場合、色々なケースで研究しないといけない。4, 5箇所視察に行ったが、かなり市や県から車の提供を受けている。また、県独自の制度を持っているので、広島県でも独自の制度を作ってほしい。有償の場合、利用者数が少ないが、非常に大切な交通機関である。活用が一番助かっているのが診療所で、次にバス。バス停まで迎えに行くので、公共交通機関の一助にもなっている。郷の駅にも近い。川西の地域資源といえば動産が一つの資源である。テーマ別のマップに取り組んでいるが、この中の資源は動産だけでなく、一番の資源は人である。「Aさんの家に行けば柏餅作り体験ができる」「Bさんの家に行けば地域の話ができる。」「Cさんの家では釜めし作り体験ができる」「Dさんの家には立派な庭が見れる」といった、それぞれの人々が持つ特技で交流をしている。交流を通じて川西のファンになっていただき、またリピーターになっていただいている。一人ひとりの資源を活用すれば、愛着を持っていただき、また来たいということになるので、そういう資源が一番大切だと思う。</p>		
<p>住民の皆さんからの要望で、市から2億円余りの補助をいただき、(株)郷の駅を作った。開業して、今年の7月で3年目を迎えた。地域の人には喜んでもらっている。全国からも視察が多く訪れていただいている。前年対比で20~30%増で推移しているが、2年経過し、1千万円の赤字を抱えている。取締役の方には無償で働いていただいている。この会社が、今後、住民の生活インフラの中心となる拠点として継続できるよう、市の支援をいただきたい。市にも要望をしているが、なかなかスムーズにっていない。郷の駅の入口に外灯がないために危険な状態である。障害のある方のバリアフリーも十分にできていない。ぜひ、ご支援いただきたい。農産物の売り上げも昨年に比べて40%増となっているが、耕作放棄地が非常に増えてきている。川西でも薬草づくりなどにも取り組んでいきたいと考えている。耕作放棄地をどう生かしていくかご支援をいただきたい。現在、計画している中に、防災機能がある。川西郷の駅の場合、24時間営業の店もあり、公衆トイレもあるので、防災的な機能を持たせたい。国ではグリーンライフインフラということが強く今後の施策として打ち出されている。循環型社会の形成、生物多様性ということも重点的な課題と考えている。スマートシティとして選ばれている。循環型社会を川西につくっていくための検討をしたいと考えている。これらにも支援をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川西郷の駅に対する継続した運営のための支援について、市としても、これまでハード、ソフト両面で支援してきた。今年度、個別の要望にも来ていただいた。上田町のほしはら山の学校の冷暖房等の整備についても要望いただいております。補正予算を9月議会に提案している状況である。現時点では予算的なこともあり、すぐに要望にお応えするのは難しい状況であることもご理解いただきたい。 ・スマートシティ構想について、川西地区は国土交通省の先行モデルプロジェクトの一つの事業として選ばれている。三次市はオブザーバーとして取組状況を聞かせていただいている。今年度は調査、研究であると聞いている。調査、研究の結果、将来にわたって循環型社会が形成され、かつ、ビジネスモデルとして成り立つということであれば、他の地域や、さらには全国に川西の取組が広がっていく可能性もあると考えている。 ・耕作放棄地を解消して、農業生産基盤である農地をいかに活用していくことが大きな課題である。川西郷の駅の重点施策には、「農地の有効活用」、「周年供給できる商品開発」「川西ならではの特産品づくり」によって農家の所得を生み出すということが重点項目に掲げられている。「川西ならではの特産品づくり」にどのようなものができるか、皆さんと一緒に考えていきたい。 	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月27日(火)

会場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>川西郷の駅は、先月オープン2周年を迎えたが、まだまだ経営が不安定な面がある。理由としては、人口の少ない過疎地のため、利用者が伸び悩んでいるということがある。地域外の客を呼び込むために、案内看板の設置が効果的であると考えている。現在、国道375号線の上田町の方から降りてきて交わる箇所に、「みわ375」「三和千本桜」の看板はあるが、「川西郷の駅」の看板はない。同様に、石原町から降りてきて国道375号線に交わる箇所にも「川西郷の駅」の看板はない。また、尾道松江道の三良坂インターの出口にも設置すれば効果的ではないかと考える。6月5日に観光スポーツ交流課に看板設置に関して相談したところ、市の設置管理条例に登録されていることが看板設置の要件だと伺った。川西郷の駅がある敷地は、「川西地域活動支援施設」という名称で管理条例に登録されているため、「川西郷の駅」という名称ではなく、「川西地域活動支援施設」という名称であれば看板が設置できる可能性があるため検討するとの回答を受けた。実際には、川西郷の駅が全体の指定管理者のため、「川西地域活動支援施設＝川西郷の駅」なので、「川西郷の駅」という案内看板を設置していただきたい。</p>	<p>看板の設置について、「川西郷の駅」という名称の看板設置が可能か、どんな方法があるか引き続き検討したい。</p>	
<p>農家民泊事業に取り組んでおり、三若町で古民家を改修し、シェアハウスを作ることなどを考えているが、携帯電話が繋がらない。また、ほしはら山の学校がある上田町も携帯電話が繋がらない。川西地区全体で携帯電話がつながるようにしてほしい。</p>	<p>携帯電話のエリアについては、au, ドコモ, ソフトバンクのどれもが入らない地域を対象に事業を行っている。把握している限り、残っているのは作木のみで、川西地区は事業の対象になっていない。3社とも入らない地域があれば、場所を確認させていただき、話をさせていただきたい。</p>	
<p>税金の申告会場の廃止について説明を伺いたい。</p>	<p>申告会場の見直し案を市議会に対して報告した。昨年中については、具体的な方針について話はさせてもらっていない。当初は、見直しの方向で協議させていただき予定だったが、7月豪雨災害により、罹災証明の申請交付事務等災害対応を最優先させたため、昨年は見送りをさせていただくということをお伺いした。本日、議会に報告させていただき、これから、今後の方針の説明のために出向く計画である。色々な話を聞かせていただく中で、交通の利便性が一番の課題であると考えている。新しい取組として、11月18日から来年1月15日の期間で、こちらに出向き、事前相談会を開催する。その中で、申告相談等の悩みや手続きの仕方、国税の申告書の調整等の相談に乗り、申告会場への来場が難しい方については、郵送で提出いただくということも考えている。</p>	
<p>道路に穴が開いていたり、倒木があった場合、担当課に連絡するが、すぐに対応してもらえない場合と、なかなかしていただけない場合がある。現場を見たら、せめて、現場を見たという印をしてほしい。また、なるべく早く直してほしい。</p>	<p>市民の方から寄せられた道路の穴等に関する情報について、ご返事をしていなかったことはたいへん失礼した。すぐに返事ができないものもあるが、できるだけ情報提供いただいた方には、現場を見に行ったことはお返ししていきたいと思う。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月27日(火)

会 場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>結婚支援グループで活動している。昨年は13組26人が成婚されている。7月には、もののけミュージアムでイベントを開催した。今年もあと2回交流会を開く予定である。せめて市の担当部署が来ていただいて、一言挨拶をいただきたい。</p>	<p>「三次結婚支援グループ」については、昨年度、4回の交流会を開催され、13組が成婚に至ったと報告を受けており、ありがたく思う。今年度も、もののけミュージアムでイベントを開催され、多くの方が参加し、盛り上がったと伺っている。地域や団体の方が主体的に出会いの場を提供していただいていることは大変有意義である。交流会への出席も含め、引き続き支援させていただきたいと思う。</p>	
<p>何年か前までは、ごみの収集について、団体に持っていけば助成金が出ていた。ぜひ制度を復活させてほしい。お年寄りなど、ごみの収集場所まで持っていけない方がいるため、自分が20件から30件ほど集めて持って行っているが、大変喜んでいただいている。</p>	<p>市では、自らごみの集積所までごみを持って行くことができない方を対象に、自宅や所定の場所に直接ごみを取りに行く、ふれあい収集事業を行っている。一人暮らしの高齢者や障害のある方が対象である。該当の方がいらっしゃれば状況を直接お聞きし、対応したい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月27日(火)

会 場: 川西コミュニティセンター

参加者数: 37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次地方森林組合や業者が、山の木を切るために作った作業道がそのままになっている。何かあった場合、所有者の責任になる。そのことを周知徹底すべきではないか。作業道が崩落し、農道が崩れたが、修繕費を何十万円もかけて、そこを通る個人が直すのはおかしいのではないか。現場を見てもらい、早急に修繕してほしい。</p>	<p>山の木を伐採する際には、伐採届を提出してもらうこととなっている。山林の所有者と伐採事業者の連名で出されるケースが多い。その際に、伐採にあたっての有意事項を森林所有者と伐採事業に通知している。窓口に来られた際にも、災害が発生しないように話をしている。実際に作業道が崩落して、下の農道の通行に支障が出ているようであれば、現場を確認させてもらいたい。</p>	
<p>平田観光農園に就職している子が、世羅町に住居を構えて通勤している。世羅町では、「世羅町に帰る」と言ったら、すぐに水道を引いてくれた。以前も世羅町で100mほど離れたところに水道を引いてもらった。三若町に住んでいる子がいるが、家まで50mほどのところまで市水道が引かれている。今年も水不足で、飲み水は郷の駅で買い、その他の水はもらい水をして生活していた。三次市では難しいとは思いますが、定住人口が若干でも増えていくと思うので、機会があれば検討してほしい。回答は知らない。</p>		